

デフレとインフレ

(逆転する行動様式)

94年4月、これからはデフレ色が一層強くなるのでインフレ時に染付いた金銭感覚を逆転させよう、インフレ時に常識化した行動様式を変えよう。一部の方にそう訴えたことがあるが、当時はそう書いた本人も未だピンと来ていなかった。しかしその後の日本経済の軌跡はデフレの進行そのものだった。

最近デフレ・スパイラルという言葉が頻りに登場するようになった。デフレ・スパイラルとは、一般に「物価下落 売上下落 業績低下 リストラ 失業増加・所得減少 支出減少 売上下落・物価下落」と云うようにデフレが螺旋状的に増幅して不況が深化してゆく状態を云う。言葉だけ並べてみると正に今日本経済そのものの姿に見える。日本が今デフレ・スパイラルに陥っているかどうかの議論は別として、デフレ状態にあるのは間違いない。

デフレとは物価が継続的に下落して経済活動が収縮する現象を云うが、デフレの深化は企業経営に重大な影響を及ぼす。

先ず自社の商品の値段が下がる。当然であるが、今迄と同じ数量を売っていたのでは売上が落ちてしまう。そこで数量を確保するために売価を下げる。すると競争相手も値下げで対抗してくる。そして値下げ競争が激しくなり、商品価格に含まれる利益が徐々に縮小する。

一方、調達した資金のコストは上昇する。とりわけ借入金が実質的に増える。同じ金額の借入金でも5年前と今では今の方がずっと重くなる。バランスシートで云えば、資産サイドの価値が下落し、負債サイドの値段が上昇するのだ。当然ながら返済がきつくなる。

デフレ時にはインフレ下の行動様式を逆にする必要があり。負債の値段が上がるのだから負債は減らす。不要な資産は早く処分して借入を返済する。放っておいても価値が自然と増えるキャッシュを貯め込むことが重要となる。

インフレ時代は逆だった。キャッシュは出来るだけ少なく保有し、可能な限り借金をして実物資産に変えておく。それが原則的行動様式だったが、今そんな行動をとったら経営は苦しくなるばか

りだ。

具体的な数字で云ってみる。今ここに100万円の現金があるとする。デフレ下での現金保有者は、持っているだけで儲かってしまう状態となる。5%物価が下がると、現金の価値は理論上5%アップする。現金の購買力が増すデフレ下では現金を持っている人が強者になる。

一方借金についてはその逆のことが起こる。5%デフレが進行すると1年前の1,000万円の借入は1,050万円になる。名目上は同じでも実質的に増えてしまう。

こんなことは誰でも頭の中では理解できる。でも実際に行動する時、インフレ時の行動を取ってしまうことが多いように見える。そうなのだ。私達の殆どは本格的なデフレなど経験したことがない。だから行動様式を容易に変えられない。

日本がデフレ状況に突入して既に10年となる。株と土地の暴落に始まったデフレは、結局資産以外の価格下落につながった。史上類例を見ない規模の資産暴落(東京バブル崩壊)に対する認識が甘かったのは仕方ないとしても、間違った処方箋は正しく書替える必要がある。問題はこれからどうするかだ。デフレは終わるのか、それとも未だ未だ続くのか。

実は、多くの部分で変化・変革が進み明るい光があちこちで見え始めている。しかし依然としてデフレの波を避けている強固な分野がある。そこは未だバブルが弾けていない。そのほとんど手付かずの分野が大きく修正され変化した時、日本の経済的停滞は終わる。私がそう考えている分野は、一つは賃金であり一つは郵貯である。

全国至る所にあって広く国民に親しまれている郵貯が、その巨大さ故に深刻な問題を抱えているという議論は別の機会にしたいと思うが、ドルベースで世界最高水準にある我が国の賃金をどう修正するかは別の意味で大きな問題である。今の状態で賃金を4割も5割も下げる訳には行かない。そんなことをしたら暴動が起こる。そうしないで実質的に賃金を下げるには為替レートによる調整しかない。つまりは円安だ。

為替は95年4月を起点に長期円安波動に突入した。それはデフレの終焉が見えるまで続く。私はそのように考えそのように行動する。経営者である貴方はどう行動するのだろうか。